

## 後生掛温泉から焼山.玉川温泉往復

1992. 4. 7. (火) 小雪霧

馬場修爾

雪とガスで岩手山スキーツアーは、無理なので、焼走りから車で八幡平大深温泉に移動し、大沼荘に宿をとる。

温泉に入り、昨夜眠れなかつたので布団の中で休養する。雪とガスのため登山は、無理だが、明日のため途中まで行くことにして出発する。後生掛温泉まで道路を歩く、八幡平アスピーテラインは、除雪されず通行止めた。後生掛温泉の建物のドアを開閉して登山口でシールを着ける。始め少し急斜面を登りシラビツの林の平原を地図を見ながら西に進む。雪でトレースもなく、標式や赤布なども全く無い。ガスで視界も悪く不安になる。1000M位登行けた場所で引返すことにして、シールを外すし滑りだす。斜度は緩いが新雪でよく滑る。登山口に着き明日登るために駐車場を借りることにして宿に帰り休養する。

コース・タイム

登山口 12:00

登行最終地点 14:00

〃 14:30

4. 8. (水)

快晴

朝起きると快晴で、国見台の山頂が真白に雪をかぶってはっきり見えた。後生掛温泉まで車で行き、昨日のコースを通って国見台を見下す。途中古い標式板が三枚だけ残っていた。新雪の下にトレースも時々現れている。最後の急斜面をキックタンで登り頂上に着く。梅の森のなだらかな尾根が見えてきた。シールを着けた儘毛虫峠に降り、梅の森に登行する。快晴で、三百六十度の展望が見事だ。八幡平の上にひときわ高く、一昨日途中まで登った岩手山がひときわ高く美しく聳えている。焼山の広い尾根も目前だ。鬼ヶ城、山小屋谷に白い噴煙も眼前だ。ここからいくつかの尾根の登下降を繰り返す。

返いて焼山に急ぐ、頂上が何処だかわかりしないなだらかな広い尾根が頂上らしい丸木の建っている処に着く。ここで休憩 周りの景色を望む。

西の方に叫沢と冷水沢をはさんで、玉川温泉の建物、国道341号線の道路がはるか下に見える。シールを外すし始め無立本の急斜面を滑り出す。気分爽快だ。やがてシラビツの林から白かばの林の混合林になり見事なブナの林に滑り込む。斜度も緩くなり思ひり滑りあつという間に874M地点に着いた。真下に玉川温泉の建物が見えた。ここで昼食をとり休憩する。谷を少し降りればすくたがここから返ることにする。滑ったコースを見事なブナの林を見ながら焼岳に登り返す。シールを着けたまま国見台まで登下降する。始めの急斜面は快適に滑れたが登山口近くの斜面は滑らずストックで推進滑降りして登山口に着く。天候に恵まれ念願のスキーツアーが終わり、本年度のツアーのなかでも思いあふい月になった。また、誰にも合わず大自然をひとりじめにした満足感も残る。これだからスキーツアーは止められない。

コース・タイム

登山口 8:00	——	国見台 9:00	——	梅森 10:00
焼山 11:00	——	玉川温泉 874M 11:30~12:00	——	焼山 13:00
国見台 14:00	——	登山口 14:30		

ルート図

